

スポ推よこすか

Vol. 19

発行責任者 横須賀市スポーツ推進委員協議会会長 武 雅兄

平成25年6月10日 発行



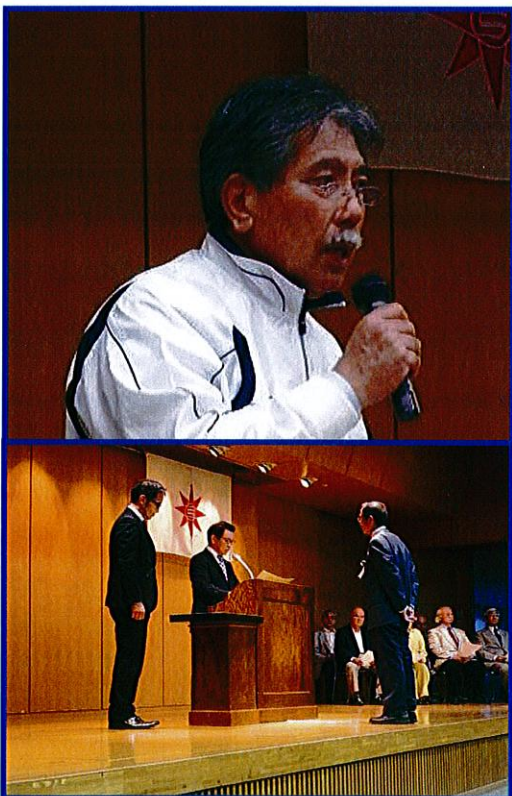
平成24年度年度末総会

武会長からのコメント

スポーツ推進委員と名称が変わっての1年でしたが、さまざまな事業へのご協力ありがとうございました。行事毎に要項・スケジュールを事前会議で検討し、多くの皆さんに参加していただき、滞りなく終了、しっかりと振り返りも行うという流れが出来つつあります。

ソフトバレーボール大会も大分定着してまいりました。前年度雨で流れてしまった「さわやかウォーキング」も初めて実施することができました。スポーツフェスタでは実施しておりましたが、学校への新体力テスト測定員派遣事業もはじまりました。2月には、学校体育授業サポート講習会を実施していただき、平成25年度の派遣事業に備えました。以前に比べて、研修会の回数を増やし、内容の充実を図りました。また、新任研修会・地区別交流会等を行うことにより、情報交換や意見交換の場をたくさん設けるようにいたしました。少しずつではありますが自立した、計画的に事業運営のできる団体になってきたものと思っております。今後も事務局の協力をいただきながら、スポーツ推進委員のあるべき姿を模索し、何をすべきか検討しながら、新しい協議会を作っていきたいと思っております。

最後になりますが、24年度をもって退任・定年を迎えたスポーツ推進委員の皆さんにお礼を申し上げます。長い間ご協力ありがとうございました。



地域体育振興功労者感謝状受賞者

鈴木 征昭（船越）・廣瀬 宗明（荻野）

スポーツ推進委員感謝状受賞者

青田 美紀子（浦郷）・迫田 美代子（浦郷）

布野 勝彦（浦郷）・加藤 豊（船越）

戸谷 烈火（逸見）・斉藤 光夫（田戸）

鈴木 文義（山崎）・外山 悟（鶴久保）

小山 哲史（城北）・雲井 宏尚（平作）

佐藤 晶（大矢部）・池野谷 治明（森崎）

渡邊 昇（森崎）・木村 靖彦（根岸）

黒沢 士郎（鴨居）・永島 昭（粟田）

荒井 正起（野比東）・佐藤 則仁（北下浦）

梶 芳彦（津久井）・尾崎 末美（荻野）

（敬称略）

平成25年度新年度総会

飛躍の年に！ 市民のアドバイザー！

5月17日に24年度年度末総会の後、引き続き25年度新年度総会が開かれました。出席者・委任状合わせて241名で執り行われました。

武会長のコメント

スポーツ推進委員は、スポーツの指導や組織・事業の企画立案だけを行う役目に、様々なスポーツを推進する役割が追加されました。もともと地域に根ざした活動を行っておりましたので、地域住民の要求・要望を最初に聞くことができる立場におりました。

その要求・要望に速やかに対応するためには、地域で活動するだけではなく、様々な研修会に参加して資質の向上を図り、市・協議会の事業に参加し、いろいろな場を利用して情報を収集することが大切だと考えます。また、スポーツ課が教育委員会から市長部局に変更になる市町村が多い中、横須賀市では教育委員会の中にある利点を生かして、新体カテスト測定員派遣事業に引き続いて、学校体育授業サポート事業を始めることにいたしました。これも、生涯スポーツと学校・地域を結ぶスポーツ推進委員の新しい仕事のひとつかと考えます。今年は任期更新の年に当たりますので、皆さんの任期は25年度/26年度の2年間となります。平成25年度は、横須賀市スポーツ振興基本計画の中では第1期の仕上げの年度となり、また第2期の実施計画を策定する年度となります。折に触れて提案してまいりますので、よろしくお願いいたします。



6月7日～8日には、関東研究大会が神奈川県で開催されました。参加されたスタッフの皆さん、一般参加の皆さん、たくさんの他都県・他市町村の方と交流されたことでしょう。また、残念ながら、いろいろな事情で全国連合へは加入しておりませんが、再加入へ向けて準備を始めております。情報は都度理事会で報告させていただきますので、検討をお願いいたします。今年度の目標は、① ニュースポーツ（ソフトバレーボール）の普及、② 地区別交流会の充実、③ 協議会事業・研修会への参加者数増加の3点としました。今年も事務局の協力をいただきながら、多くのスポーツ推進委員参加の下で、楽しく充実した協議会を作っていきたいと思っております。

横須賀市スポーツ推進委員協議会 会長 武 雅兄

25年度協議会三役

会長	武 雅兄
副会長	鈴木 貞雄（総務）
副会長	石川 輝雄（事業）
副会長	林 但（広報）

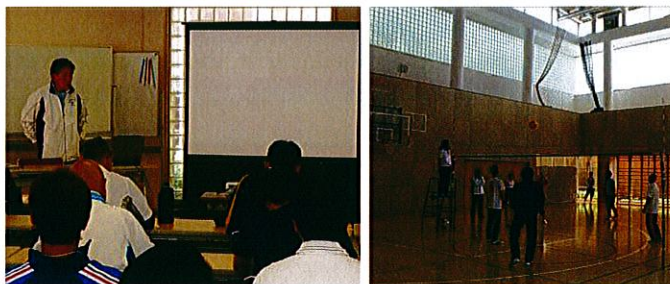
横須賀市教育委員会事務局 学校教育部スポーツ課

課長	伊藤 学
係長	柴崎 正
担当者	青木 翔太

平成25年度新任研修会

平成25年5月25日（土）、武山小学校ミーティングルームにて、スポーツ推進委員新任研修会が行われました。今年度は委員の任期更新の年度でもあり、新任・役員あわせて37名の参加がありました。始めに伊藤課長及び武会長の講義があり、スポーツ推進委員の心構え、協議会の事業などの説明がありました。何でもやってやろう、覚えようとする好奇心、向上心を持つ事、楽しみながら参加・指導をする事が大切だという事を学びました。

次は4チームに分かれ、ソフトバレーボールを楽しみました。初めて体験する人も多く、ゲームになると力も入り、いつの間にか熱気ムンムンの試合になっていました。最後にグループ討議を行い、必ず出る話が、「クラブチームや塾通いの子供も多く、なかなか集まらない」、「お年寄りも高齢になり、運動会も中止になった。」、「今後どのようなスポーツを取り入れたらいいのか」、「横浜市では福祉スポーツも広がっている。横須賀市でも取り入れてみてはどうか」など、話題満載の話し合いになりました。



広報部 副部長 金森 由香里（追浜）

第4回 北地区交流・情報交換会

各地区に先駆け、北地区交流会が5月26日(日)に北体育会館において行われました。

今年の交流研修会は例年のソフトバレーボールをファミリーバドミントンに変えて実施しました。9学区中、2学区は地元行事のため不参加となり、参加者数は22名(参加率38%)と少なかったものの、ゲストとして武会長、林・石川両副会長、他2名の参加をいただき行われました。また、講師として汐入学区から小泉幸男さん、鈴木幸子さんにお出で頂きました。午前8時集合、会場準備、開会式の後、座学研修を行いました。参加者のほとんどが初めての体験競技のせいか質問多発、熱心な研修会となりました。実技研修は参加者が6チームに分かれコートを2面使い、試合形式で行われました。約1時間半、汗を流したあと休憩をはさみコートの中で車座になり第2部「情報交換会」を行い、12時に終了しました。北地区スポーツ推進委員の交流の場として大変実りある1日でした。

ご協力・ご指導頂いた方々に感謝します。

広報部 押井 秀夫(鷹取)

普通救命講習会

私達は、いつ、どこで、突然のけがや病気におそわれるかわかりません。そんなときに、家庭や職場、スポーツ推進委員イベント中などでもできる手当てのことを応急手当といいます。病院に行くまでに応急手当をすることで、けがや病気の悪化を防ぐことができます。突然、周りにいた人の呼吸が止まったりすることもあります。こんな人の命を救うために、そばに居合わせた人ができる応急手当のことを救命処置といいます。今回の講習会では、この普通救命範囲での勉強です。

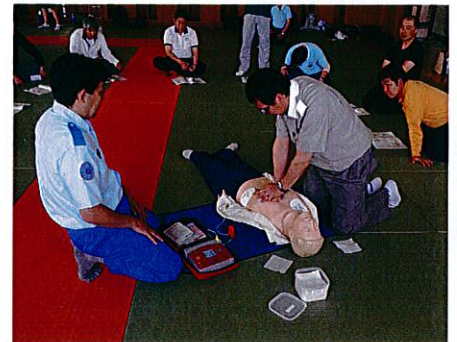
救命の連鎖という言葉があります。

「心停止の予防」・
「心停止の早期認識と通報」・「一次救命処置」・「二次救命処置と心拍再開後の集中治療」の4つの輪で成り立ちます。

この4つの輪が途切れることなくすばやくつながることで救命効果が高まります。スポ推委員の皆様も、過去に講習会に参加された方はたくさんいると思いますが、要領については、定期的に改正がされています。今一度講義を受け、緊急時に対応できる市民になりましょう。受講内容は、心肺蘇生法とAEDの取り扱いです。

難しいことはなく、慣れることが大事です。ぜひ次回もご参加下さい。

広報部 部長 原 暁彦(長浦)



今回の講習会講師

横須賀市中央消防署坂本出張所	係長	高橋氏
横須賀市消防団第15分団		森井氏
//	第16分団	浜浦氏
//	//	浜浦氏

大接戦!!!

講師の汐入学区
小泉さん・鈴木さん

本気モードです!

情報交換会

関東スポーツ推進委員研究大会

6月7日(金)8日(土)神奈川県民ホールをメイン会場として、関東1都8県のスポーツ推進委員約2000名が集まり盛大に開催されました。大会テーマは『スポーツの力で地域を元気に～「する」「みる」「支える」みんなでスポーツ～』で、横須賀市からはスタッフ参加10名、一般参加・事務局14名が参加しました。アトラクションIでは、横浜市消防音楽隊の演奏とドリルの演技を堪能しました。開会式・表彰式では主催者のあいさつ、横浜市副市長の歓迎挨拶のあと、功労のあった88名を功労者表彰として一人ずつ表彰状が渡されました。横須賀市からは森崎学区の石川輝雄さんが表彰されました。アトラクションIIでは、厚木市の相模国飯山白龍太鼓保存会の皆さまによる「白龍伝説」をもとにした創作太鼓の迫力ある演奏があり、伝承を含めた地域ぐるみの取り組みに大きな活力を感じました。基調講演は日本体育大学教授山本博氏(アテネオリンピック銀メダリスト)演題「20年かけて銅から銀へ」ユーモアたっぷりの講演には会場全体が話の虜になりました。講演の気づいた点を3点報告します。

(1) 中学入学の時アーチェリーと出会う

小学生の時は野球少年で、夜遅くまで野球の練習をしました。入学後の担任の先生が、アーチェリー部を作り、声をかけてもらい入部することにしました。そこはマイナースポーツのため「楽しさを最初に教えてくれました」ので興味を持ちました。しかし、4、5日して記録を取ったら、結果はビリでした。人一倍練習をすれば上達すると考え練習を重ねましたが上達しません。先生に聞きに行きましたが、「自分で考えなさい!」と言われ、図書館で本を借り一晩で全部読み、書かれていたことを一つひとつ実行しました。

(2) 自分で工夫し努力した

「変わりたいと思えば練習は辛い」高校ではインターハイで3連覇をしました。同級生の愛甲選手は甲子園で優勝し脚光を浴びましたが、自分はそういうことはありません。練習・反省、練習・反省を繰り返した。横浜高校から日体大に進学し、アーチェリーをはじめ10年目にロサンゼルスオリンピックに出ました。毎日が楽しくてしょうがありませんでした。

(3) 生徒や周りの人に救われた

初めて出たロサンゼルスオリンピックは銅メダル、その後のオリンピックは8位、17位、19位、参加できずとなり、肉体も心も折れた。その頃の私は人の話を聞く耳を持っていませんでした。「山本はもうダメだ」という囁きも聞こえました。その挫折から勤務する高校のアーチェリー部の生徒の純粋に競技に取り組む姿勢をみて、もう一度原点に戻って練習を始めたところ、生徒の意見を聴ける余裕ができ、再びオリンピックを目指しアテネオリンピックでは銀メダルを獲得しました。

「人間はいくつになっても変わる」興味を持って、近づき、行動することが大切だと思います。教える人は楽しく、人に伝えるようにしたいものです。

2日目は4つの分科会に分かれ、活動を行いました。横須賀市の一般参加者は第3分科会(ウォーキング実習:Aコース)に参加、スタッフ参加は資料作成部、受付、第4分科会(ウォーキング実習:Bの先導)を担当しました。今回の研究大会で学んだこと、他市との交流会で得たことを横須賀市の活動や学区の活動の中に反映していきたいと思っています。

副会長 林 但(富士見)



功労者表彰の様相

功労者表彰で石川副会長が表彰されました。おめでとうございます。

今年度もホームページを活用し、広報紙のカラー版や、更に細かいインフォメーションを載せてあります。是非ごらん下さい。 <http://sukataishi.jp> 広報部